

【井川康司君を偲んで】

去る6月13日（土）午後4時、谷町線「野江内代」駅改札口に8名の昭和50年卒業生が集まりました（参加した人の名前は後記）。井川康司君の法要に参加するためです。

「えっ、井川君が亡くなったの」
本年1月5日深夜に脳卒中で倒れ、そのまま還らぬ人となったと聞いております。知ったのが後日であったため、通夜・告別式にも参加できなかったメンバーで別途井川君を送る会をご両親と一緒に行いました、これが冒頭の6月13日です。

お寺で法要を行い、その後井川君のお父さんを囲んで飲みました。
（僕は井川君の分まで飲んで、途中から記憶が曖昧です。）
その際「追悼文」を書くことを頼まれて、承諾しました。

しかし悲しみにひたる文章を書くのは苦手で、もっともらしい事を書いても嘘になりそうなので「正式な追悼文を書くことは」断念することにしました。
結局私の中の井川君との思い出（古い思い出ばかりですが）を書いて、「偲ぶ」ということでご容赦下さい。

井川と最後に会ったのはいつだったかな。
確か2004. 1. 24の「8組・9組合同クラス会」だったと思う。
もう5年も前か。まだ50歳になってなかったな。
当時は僕も彼も大阪にいて、お互いそれなりにおっさんになってたな。
最後はいつものように、井川に僕の妹（まだ独身！）を貰ってくれ、と頼んで断られるというお決まりのコース（僕は半分以上、本気だったんやけどね）。
もし嫁さんがいたら、脳卒中で倒れたぐらいで死ななかつたのにな、悔しいなあ。

井川と始めて会ったのは1年1組の初日のはず。
でも、お互いあまり目立ってなかったな。

井川と親しくなったきっかけはよく覚えてる。
バレーボール大会のクラス選抜メンバーの6人に共に入ったから。
最強チームを作ろうと中学のバレーボール部経験者でチームを作った。
井川はバレーボール部ではないのに選ばれてた、運動神経がよかったからな。
（夏山、蔭山、井川、大川、僕、・・・ ごめん、あと1人が思い出せない）
決勝戦までいったのは覚えてるが、優勝か、準優勝かどっちやったかな。
「北野交歓会」で北野の1組に圧勝したのはよく覚えてる。試合後北野の人が「負けると運動場を走らされるので勝ったことにして下さい」と頼みに来ていた。
趣味もなぜか井川と繋がってしまう。
高校1年の秋だったと思うけど、なぜか井川、巽君（ひげ）、と3人で島之内（教会でやっていた）寄席に行ったことがある。そのときに初めて本格的な上方落語（1席30分～1時間かかる）を観て、なぜか感動してしまった。
井川と落語のテープをよく交換して聞いたなあ。
2人で漫才しようと練習したこともあった、披露することはなかったけど。
おかげでそれから30数年、僕はいまだに趣味の落語鑑賞は引っ張ってるよ。
おい、あの桂三枝が上方落語協会の会長でっせ。

長島選手の引退試合を覚えてるか？
いっしょに京阪電車の天満橋駅で帰りの普通電車を待っていたときに、京都三条行きの特急・テレビカーが来てしまった時のこと。しかも長島が打席に立っていたので、思わずいっしょに特急に乗ったよな。京橋についてもなかなか打たないので、そのまま特急を降りれずに京都まで行ってしまったよな。あのときの電車賃はどうしたっけ？

大手前高校生だったのに、勉強に関する思い出がほとんどない。
あっ、ひとつあった、あった。
3年の夏休みに井川と2人で予備校（どこの予備校だったか覚えていない）の夏期講習会

に10日間ほど行ったことがあったよな。予備校に行くまでの途中で成人映画館（当時はピンク映画と言ってたか）があつて。余りに暑かったので、どちらともなく「映画行こか」ということになって、その映画館へ。初めての成人映画だったのでお互いに結構緊張してたな。切符売り場で「学生割引」とあつたので、何も考えずに2人とも大手前の学生証を提示したら、売り場のおばさんにじろっと顔を見られたなあ。あのおばさんの一言が今でも忘れられへん『あんたら、勉強もしっかりやらなあかんで』。結局入れてくれたけど。

卒業した後、秋山と3人での旅行（萩・津和野）は一生忘れないわ。秋山も結構ええ加減で、3月で寒いから空いてるやろと泊るところも決めずに行った。旅行の気軽さ、卒業後の開放感もあつて、3人とも初めて「ナンパ」なるものに挑戦した。それぞれ1人でアタック、2人で組んでアタック、3人でアタック、と果敢に挑戦したけれど、結局3人ともこういうことには「向いていない」という結論に達したよね。かなり途中からテンションが下がって、最終日は山口でへべれけになることにしたね。泊った宿がいいのか悪いのか、山口大学の学生御用達の宴会場兼旅館というところ。酒だけは安くて美味しかった。途中で意識が飛んで（これも初めての経験）、朝起きたら、一升瓶が数本と、げろの山が4～5個あつたな。「向いてない」ということと「飲みすぎると意識が飛ぶ」のは、僕は一生引きずることになりそうです。

パチンコも井川に繋がる。予備校時代にパチンコを始めたけど、地元の守口はさけて京橋にいった。知ってる人には会いたくないので（予備校生ですから）、少し駅から離れた結構出ている店を探して入ったら、2つ隣で井川が打ってた。井川も予備校生だからいいかということにした。それからは待ち合わせもしていないのに、そこでよく会つたなあ。お互いよく大学に入ったなあ。これも大手前高校のおかげかな。マージャンは間違いなく僕が井川に教えました、悪しからず。

書いてるうちにいろんなことを思い出してキリがないのでこの辺で締めます。

書いてるうちに、なぜ追悼文が書けないのか少し分つてきたような気がします。井川にもう会えないし声を聴けないのは、非常に寂しいし、悔しい。でも悲しいとは思わないのです。なぜなら、井川君とはまだ「繋がっている」からです。思い出の中にいるのは勿論ですが、いろんな場面で僕の中に井川君が出てくる。「井川だったらどう言うかな」「井川だったらどう考えるかな」それもなんとなく分る気がするからです。それを「繋がっている」という表現にしました。

こんどいつ会えるのかな、井川。
案外早いかもしれんな。
でも、あまり急がんといてな。
会ったときにいっぱい話ができるように、もう少しいろんなことをしてみるから。

最後にご連絡です。

井川君は今野江内代のお寺にいます。
会いに行つてやって下さい。

〒534-0013
大阪市都島区内代町2-1-29 (06-6953-3601)
『雲観寺』

なお冒頭に書いた8名とは以下の面々です（順番は出席番号順）。
野村(足立)晃子、伊藤(杉江)緑、森下(吉田)孝子、小林義人、酒井建幸、
酒井広志、曾根充利、高折洋。

以上（曾根記）